

第1学年 総合的な学習の時間 学習指導案

草津市立新堂中学校 教諭 大岡 みすず

1 単元名 「校区にある世界農業遺産 琵琶湖システムのえり漁魅力発信プロジェクト」

2 単元の目標

○琵琶湖のえり漁について、歴史や方法、とれる魚などさまざまな視点から理解し、まとめることができる。 (知識および技能)

○調べたことや地元の漁師さん農家さんから聞いた話をもとに、課題を見だし、えり漁を持続可能なものとするための方策を考えたり、考えたことを発表したりすることができる。

(思考力・判断力・表現力等)

○えり漁の良さを多くの人に知ってもらいたいという目的意識をもち、意欲的に発信したり、これからの自分の行動について考えたりする事ができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、校区にある世界農業遺産として認定された琵琶湖システムの中で、琵琶湖に直接関わっている漁法である琵琶湖のえり漁に焦点をあて、中学校区の琵琶湖岸でよくみられる風景を題材にして、生徒たちに身近なシステムとして取り上げる。

(2) 生徒観

本校の第一学年の生徒は、小学校の総合的な学習において、琵琶湖の水質や周辺で育てられるお米についての学習をしてきている。これらの身近な自然との触れ合いを通して、地域の自然環境を大切にしていきたいという態度が少しずつ根付いている。新堂中学校区に世界から認められた琵琶湖システムがあることを知り、その認定理由について調べ、特にえり漁を持続可能なものにするために中学生としてできることを考え、発信したり行動に移したりする意義は大きい。

(3) 指導観

本単元では、校区にある世界農業遺産「琵琶湖システム」のうちの「琵琶湖のえり漁」を教材として取り上げる。

校区には漁業協同組合の漁師さんや湖魚料理に関わる方、環境を守る活動をしておられる方がいる。地域で活躍されている方をお招きし、実際にえり漁を体験することで、学習への意欲を高めることができる。えり漁という昔から続けられてきた漁法を持続可能なものとして継続していくために中学生としてできることをさまざまな視点から考えさせ、それらを行動にうつすことで、自分たちの住む地域に誇りをもたせたい。また、さまざまな地域の方々とのコミュニケーションを通して、人とのつながりの心地よさや関係を深めるソーシャルスキルの向上も図ることができる。

今年から「世界湖沼の日」が制定され、滋賀県全体で琵琶湖の環境をよりよくしたり意識を高めたりする機運があることにもふれる。生徒たちもより多くの人々の心に届くような取り組みを通し、相手意識を

もって活動することができるようになるよさがある。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

B 相互性・・・琵琶湖を中心とした琵琶湖システムと私たちのくらしの豊かさはつながっており、このつながりを未来の地域の姿として残していくことが大切であるということ。

C 有限性・・・えり漁には長い歴史と文化があり、人々が大切に守ってきたものである。しかし、近年はえりの数が減り、後継者不足や外来魚の問題など、多くの課題があること。

E 連携性・・・漁師さんや琵琶湖に関わる人だけが活動するのではなく、地域全体でえり漁の良さを知り、支えていく必要があること。

・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力

えり漁について様々な視点から考え、伝統的な漁法を持続可能なものとして残していく方策を考える。

つながりを尊重する態度

えり漁とそれらを守る地域の方（漁業協同組合や湖魚販売店、えりをつくる人など）との関わりを通し、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを自覚し、尊重しようとする。また、琵琶湖システムにおけるえり漁と農業が林業とのつながりのすばらしさに気づき、自然環境における循環を大切にしようとする。

進んで参加する態度

環境に優しいえり漁を盛んにするために、自分にできることはないかと考え、意欲的に関わりをもとうとしたり、行動にうつそうとしたりして、地域社会に貢献しようとする。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正

えり漁に携わる人が高齢化していることや、他地域からえり漁に魅力を感じて移住している人たちがいることを知り、自分たちだけでなく様々な世代の人たちがえり漁を持続可能なものとしている。

自然環境、生態系の保全を重視する

魚をとりすぎないことや、稚魚はとらないことなど、琵琶湖の生態系を守る工夫がたくさんされている漁法である。また、外来魚や外来種によってとれる魚が昔と今とではかわってきている。

幸福感を重視する

自分たちの世代だけが幸せなのではなく、えり漁を守り伝えることが、大人と子どもの幸福感につながる。

・達成が期待される SDG s

目標 1 4 海の豊かさを守ろう

目標 1 7 パートナリーシップで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>①えり漁のしくみや歴史、環境への配慮について理解している。</p> <p>②学んだり、調べたり、聞いたりして獲得した知識を、言語やグラフ、イラストなどを用いてそれらに関連づけながらまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>①データや図表などをもとに課題を見出し、えり漁を持続可能な漁法として発展させるための方策を考えることができる。</p> <p>②考えたことを論理的に説明したり、図表や文章で表現したりしている。</p>	<p>①伝統的な漁法を発展させ持続可能なものとする意識を持ち、意欲的に調べたり、さまざまな人と関わりをもとうとしたりしている。</p> <p>② えり漁の魅力をも PR することを通して、多くの人に発信し自分にできることを模索し行動にうつそうとしている。</p>

5 単元の指導計画 (全 16 時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 琵琶湖の湖面に立てられている多数の棒状のしかけについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えり漁という魚をとるしかけである。 ・漁師さんが琵琶湖の魚をとる目的でつくっている。 ・漁港の近くには湖魚店がある。 	<p>琵琶湖面に見られるえり漁のしかけの画像を掲示し、知っていることを話す。校区にある私たちに身近な風景であることから考えさせるようにする。</p>	<p>ウ (主体的)</p>
<p>2 襟量について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えり漁のしくみ、歴史、環境への配慮、たずさわる人たちについて ・漁業協同組合の方のお話や湖魚料理店、環境を守る会の方のお話を聞く。 ・えり漁を体験することで、琵琶湖の豊かさを感じ、琵琶湖の魚とふれあう。 <p>3 琵琶湖システムについて知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県農政課で普及活動をされている 	<p>○えり漁について興味のあるテーマについて調べる。</p> <p>歴史、しくみ、環境、仕事など</p> <p>○世界農業遺産に関わっている方や漁業組合の漁師さんの話を聞いて、自分たちで調べたことだけでなく、琵琶湖やえり漁の現状を知り、魅力や課題についての理解を深める。</p> <p>○調べたことや体験したことをまと</p>	<p>イ① (思判表)</p> <p>ウ① (主体的)</p> <p>ア① (知・技)</p>

<p>方からの話を聞き、琵琶湖を中心とした生態系の保全が世界農業遺産として認められていることを知る。</p> <p>4 聞いたり調べたりしたことをスライドにまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人でテーマを決め、ロイロノートにまとめる。班や学級で共有する。 ・自分たちが学習したえり漁の魅力を地域の方へ発信しPRする。 	<p>め、班や学級で発表し、内容を共有することを通して、さまざまな視点でえり漁をとらえられるようにする。</p>	
<p>5 自分たちにできることをさらに考え行動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖システムのポスターを制作して校区のさまざまなところにはる。 ・お店と連携して湖魚料理のメニュー開発やおいしさのアピールをする。 ・マルシェや地域のお祭りに参加し、えり漁の魅力をPRする。 <p>6 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えり漁や琵琶湖の魚の良さをもっとアピールできたらよい。 ・えり漁や琵琶湖システムに関わる人たちからもっと話を聞いたり連携してつながったりできる活動をしていきたい。 ・伝統的で環境に優しいえり漁をさらに持続可能なものにしたい。 	<p>○えり漁を持続可能な漁法として発展させるために、できることをさまざまな視点から考えさせるようにする。</p> <p>実際に自分たちができることを行動に移す。</p> <p>○今後の活動へと連続発展させていかなせるために、今回の活動の貢献度についても着目させるようにする。</p>	<p>イ② (思判表)</p> <p>ウ② (主体的)</p> <p>ア② (知・技)</p>